

令和4年度 学校評価総括表

学校経営上の重点項目

- No. 1 確かな学力の育成と指導力の向上
- No. 2 基本的生活習慣の確立を図る生徒指導の徹底
- No. 3 人権尊重の精神の涵養を図る人権教育の推進
- No. 4 個に応じた支援を行う特別支援教育の推進
- No. 5 心身ともに健康な児童を育てる特別活動の推進
- No. 6 開かれた学校づくりの推進

徳島市方上小学校

重点課題	重点目標	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度の課題と今後の改善方策	
		評価指標と活動計画	評価			
確かな学力の育成と指導力の向上	主体的・対話的で深い学びでの実現に向けた授業改善 ① 語彙力をつけ、学力の基礎である漢字力・計算力を伸ばしたり、継続的に読書をしたりする。 ② 友達の思いや考えをしっかりと聞き聞けることができる。 ③ タブレットを活用し、自分の考えを進んで表現することができる。	評価指標 ①-1 朝の活動や授業の振り返りにタブレットを活用し、自主的に学習ができるようにする。 ①-2 発達段階に応じて調べ学習やまとめ学習ができるように、教材を工夫して授業展開を行うとともに、読書習慣を身に付けさせる。	評価指標による達成度 ①-1 低学年は、タブレットの扱いに慣れ、全学年、タブレットを活用した授業や家庭学習を行うことができた。 ①-2 中・高学年は、調べ学習やまとめ学習にタブレットを活用することができたが、自主的な読書習慣は、十分に身に付いていない。	○タブレットを活用した授業を、参観させてもらって、黒板だけの昔の授業に比べ、よく分かる授業が行われていた。	授業の中で、ICTサポーターを積極的に活用し、効果的にタブレットを活用した授業展開を考えていく必要がある。 タブレット端末の操作技能に個人差がある。五能習得のために、個別の支援や、児童がペアを組み、教え合う等の工夫を行っていく。 自分の考えを整理したり、友達の意見を聞いたりすることが難しい児童がいるので、発表ナビ・聞き方ナビの見直しをしていく。 読書については、だまって集中して読書ができる児童が増えてきたが、学級文庫の入れ替えや、図書室の本を充実させるなどして、読書の幅を広げていきたい。	
		②-1 発表の前に自分の意見をノートにまとめさせ、自分の考えに自信をもてるようにする。 ②-2 「発表ナビ」を作成し、自分の考えを分かりやすく伝える発表の仕方を身に付けさせる。	②-1 自分の考えをノートにまとめる時間を十分確保することによって、友達の意見を聞き、発表できる児童が増えてきた。 ②-2 「発表ナビ」が十分定着せず、聞いている人によく伝わるように発表できる児童は、まだまだ少ない。			総合評価 (評定) B
		③-1 グループ学習を積極的に取り入れることで、自分の考えを明確にする。 ③-2 ワークシートやノート、タブレットなどを活用することで、児童の思考の過程が残るようにする。	③-1 画面共有機能などを有効利用することで、子ども同士が意見交換や作品の紹介をしやすいことができ、学習意欲が高まった。 ③-2 写真データや画像など、児童の思考過程が残るワークシートを作成し、評価にも役だった。			総合評価 (所見) 学習に真剣に取り組む児童が多く、落ち着いた環境で、学習を進めることができている。 タブレット端末を活用した授業は、各学年、昨年度より進み、児童の知識・理解を深める上で効果を上げている。 自分の意見をノートやタブレットにまとめ、自信をもち、友達にも意見をうまく伝えられる児童が増えてきている。 学校行事や縦割り班活動で、高学年児童は活躍する場が増え、人前で話をすることも慣れてきた。
活動計画 ①-1・2 ICTサポーターによる授業支援を行い、タブレット活用を積極的に行い、漢字・計算を中心にタブレットでのドリル学習を繰り返す。 ②-1・2 低・中・高学年で「聞き方名人」「話し方名人」を児童に配布し、聞き方と話し方の系統的な指導を行う。 ③-1・2 表現できる場を授業中や全ての教育活動で数多く設定し、全ての児童が自信をもって表現することができるようにしていく。	活動計画の実施状況 ①-1 毎週月曜日のICTサポーター来校時には、タブレットを活用した授業を行った。 ①-2 どの学年でもドリル学習を進め、知識理解が深まっている。 ②-1・2 聞き方・話し方ともに指導に当たることで、基本的な発表の仕方は定着し、聞き方も改善されている。 ③-1・2 授業中には学年に応じたタブレットの活用方法で、表現活動を行ってきた。行事等でも表現する機会を増やした。					

重点課題	重点目標	自己評価		学校関係者評価	次年度の課題と今後の改善方策
		評価指標と活動計画	評価指標による達成度	学校関係者の意見	
基本的生活習慣の確立を図る生徒指導の徹底	① 望ましい生活習慣を身に付け、学校のきまり守って生活できるようにする。 ② 気持ちの良い挨拶ができるよう指導を徹底する。	評価指標 ① 基本的生活習慣の確立に向けて、家庭と学校の連携に関する肯定的意見の割合を80%以上とする。	評価指標による達成度 ① 81%の家庭が、基本的な生活習慣の確立に向けて連携できているという肯定的な意見をもっている。	学校関係者の意見 ○道で会ったときに、大きな声で挨拶をしてくれる児童が増えてきた。顔見知りになると、挨拶しない児童がいるが、いつでもでも挨拶できる子どもに育ててほしい。	
		----- ② 児童が進んで挨拶を実施する割合を児童・保護者ともに80%以上とする。	----- ② 児童86%、保護者80%が挨拶ができているととらえている。しかし、小さな声であったり、自分から進んでできなかったり、課題は残っている。		総合評価 (評定) B
		活動計画 ① 児童朝会や保健委員会の放送等で望ましい生活習慣の定着に向けて徹底を呼びかけるとともに、保護者への啓発を行う。	活動計画の実施状況 ① 保健委員会による清潔検査の結果の放送や、学校保健委員会で児童の生活習慣についてのアンケート結果を報告した。毎月発行しているほけんだよりで家庭への啓発を続けている。	(所見) 時間を守って、規則正しい生活ができている。校内のきまりを守り、安全に気を配って生活している児童がほとんどであるが、一部、ルールが守れない児童もいる。挨拶は、昨年度に比べ、大きな声で気持ちの良い挨拶ができる児童が増えてきた。しかし、十分ではなく、小さな声だったり、自分から進んでできなかったりする児童が見られる。全員が気持ちの良い挨拶ができるよう、学校全体で取り組む必要がある。しかしながら、生徒指導上は大きな問題も無く、児童が仲良く生活ができている。	
		----- ② 生活・体育委員会によるあいさつ運動を実施し、継続的に指導し、定着を図る。	----- ② これまで挨拶が受動的であった児童の中に、自分から進んで挨拶をすることができるようになってきた。地域の方にも気持ちの良い挨拶ができるようにしていきたい。		

重点課題	重点目標	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度の課題と 今後の改善方策	
		評価指標と活動計画	評価			
人権尊重の精神の涵養を図る人権教育の推進	① 学校教育活動全体を通して人権尊重の考えを身に付け、温かく人間味あふれる豊かな感性をもった子どもを育成する。 ② 相手の立場に立って考える温かい心を持ち、互いの違いを認め合い、支え合って生活しようとする集団を育てる。	評価指標 ① 縦割り班活動や人権問題学習を通して、友だちと仲良く遊び、協力して生活できる児童の割合を90%以上とする。	評価指標による達成度 ① 友だちと仲良く遊んでいる児童は、96%以上、協力して生活している児童は92%以上であった。縦割り班活動を通して、異年齢の児童の間わりも生まれている。	○授業参観や学習発表会の様子から、生き生きと楽しそうな児童の様子を見て、充実した毎日を感じた。	自分に自信がなく、長所に気付いていない児童が多いことが、本校の課題である。友達のよさを知ると同時に、自分のよさを実感できる体験活動や、日々の授業を進めていかなければならない。また、異学年の児童だけでなく、同学年のクラスメイトに対する思いやりの気持ちを育み、自分も友達も大切にする児童の育成をさらに進めていく。	
		② 友達がつらい思いをしたり困っていたりするときは、一緒に考えたり行動したりできる児童の割合を90%以上とする。	② 92%以上の児童が、友だちがつらい思いをしたり困ったときに一緒に考え、行動できたと答えている。優しく寄り添う事ができる児童が育っている。			総合評価 (評定) A (所見) 今年度は、縦割り班で動物園へ徒歩遠足に行き、読み聞かせや朝の活動での遊びを毎月行ってきた。異学年集団の縦割り班活動で、他学年の児童同士が生まれ、優しい心情が育ってきている。しかし、「自分の長所を知っている」という児童は全体の64%にとどまっていて、自尊感情を養う活動や声かけが今以上に必要である。
		活動計画 ① 教育活動全体でポジティブな行動支援を行い、子ども一人一人を大切にする教育を推進し、優しく思いやりのある児童を育成する。	活動計画の実施状況 ① 教職員全員が、児童を褒める言葉をかけるようにしている。担任外の児童にも全員で関わるようにし、認め合う集団作りに努めた。			
		② 参観日やPTA活動などで、人権について考える機会を設ける。	② 参観日に親子ふれあいフォーラムを開催し、親子で意見交換をする機会をもつことができた。また、人権学習を参観日で公開したり、学習発表会を体育科案で開催し、全児童の様子を保護者に見ていただくことができた。			

重点課題	重点目標	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度の課題と 今後の改善方策
		評価指標と活動計画	評価指標による達成度		
個に応じた支援を行う特別支援教育の推進	① 特別支援教育コーディネーターを中心に、特別支援教育に関する校内体制を整備し、全教職員の共通理解のもと、保護者・地域への啓発と教育活動の推進を図る。	<p>①-1 児童一人ひとりに応じた支援に関する保護者の満足度を80%以上とする。</p> <p>①-2 児童理解のための情報交換会を学期に1回実施する。</p>	<p>①-1 77%の保護者が児童一人ひとりに応じた教育が行われているととらえている。</p> <p>①-2 児童理解のための情報交換は、1学期しかできなかったが、問題行動等については、その都度、共通理解している。</p>	<p>(評定) C</p> <p>(所見) 小規模校ならではの、全職員が全児童に関わり、ポジティブな声かけを行っている。まだまだ自分に自信がもてず、苦手意識を抱えた児童もいるが、個別に支援をしていくことで、児童も安定した学校生活を送ることができている。しかし、保護者や児童の思いには、届いていないのが現状である。</p>	<p>○特別支援学級の授業を参観し、個別に支援してくれている様子が分かった。</p> <p>○表現力の向上に向けて、児童にさらなる指導をお願いしたい。</p> <p>特別支援学級の在籍児童数が増える予定である。個に応じた学習指導や、基礎基本の定着、望ましい生活習慣など、カリキュラムの見直しが必要である。また、保護者、児童ともに、教員の学習指導の在り方に満足している割合が昨年度より下がっている。この現状を真摯に捉え、学校全体で、個に応じた指導を進めていきたい。褒める声かけは継続し、児童一人ひとりを大切にしたい学校になるよう、教職員間でもプラスの情報交換を行っていく。</p>
		② 児童一人ひとりに応じた支援を行うために、教育内容や教育方法の工夫改善を図る。	② 各々の子供の特性に応じ、頑張ったことを教師から褒められていると感じている児童が85%以上を目指す。		
	<p>①-1 特別支援教室での学習の様子を職員に公開し、共通理解を深める。</p> <p>①-2 児童理解を目的とする校内研修を全ての教員が行う。特に気になる児童については、全教職員の目で観察・指導を行う。</p> <p>②-1 教育活動全体において児童の頑張りを褒める機会を設ける。</p> <p>②-2 家庭との連絡ノートや電話連絡を密にすることで、保護者との良好な関係の維持に努める。</p>	<p>①-1 毎学期、特別支援学級の学習を参観し、在籍児童の特性や個別の支援について理解した。</p> <p>①-2 校内研修で全ての教員が研究授業を行い、各学級の児童の把握、及び指導方法について研修を行うことができた。</p> <p>②-1 児童を褒める言葉かけを心がけ、全職員が全ての児童に関わるようにしている。</p> <p>②-2 家庭とは電話での連絡で、健康面・生徒指導面について、連携を行っている。即日対応に心がけ、大きな問題はなかった。</p>			

重点課題	重点目標	自己評価		学校関係者評価	次年度の課題と今後の改善方策
		評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	
心身ともに健康な児童を育てる特別活動の推進	① 異学年集団を中心とした活動を通して、豊かな人間性や社会性を育む。 ② 心身の健全な発達や健康の保持増進などについての関心を高めるための活動を推進する。	評価指標	評価指標による達成度	総合評価 (評定) B	○学校の運動場が放課後や休日に使えたら、一緒に運動に取り組みたい。 ○学校給食では、バランスのとれた食事ができる。家では偏食があり、嫌いな物はなかなか食べてもらえないので、学校では頑張って食べているようで給食は有難い。
		① 様々な異学年集団活動に対する児童の満足度を85%以上とする。	① 89.7%の児童が満足と答えた。縦割り班の活動を本年度は遊びや読み聞かせを毎月行うことができた。	(所見) 休み時間の外遊びは、2極化があり、室内ばかりで過ごす児童もいる。家庭でも同じような状況で、ほとんど運動しない児童もいる。保健委員会の活動は、清潔で病気の予防を意識づけるには効果的であった。今年度は、学校保健委員会を参観日に開催し、多数の保護者に参加いただいた。本校児童の生活習慣について現状を伝えるいい機会であった。	
		②-1 学校でも家庭でも、元気いっぱい運動している児童の割合を85%以上とする。	② 82.5%の児童が、運動に取り組んでいると答えた。休み時間等、学校での運動の機会を充実させる必要がある。		
		②-2 生活調査や食育の授業を行う。	②-2 生活調査は、継続しており、長期休業中についても基本的な生活習慣が崩れないよう自己評価を行った。食育については、ゲストティーチャーを招き系統的に指導を行ってきた。		
		活動計画	活動計画の実施状況		
		① 異学年班での読み聞かせや遊びを毎月実施し、動物園への遠足に行き、異学年での交流を図る。	① 毎月、読み聞かせや、遊びの活動を異学年のなかよし班で行ってきた。動物園への遠足や運動会のリレーもなかよし班で取り組み、年間通じて同じグループでの交流を図ることができた		
		②-1 体育学習の充実と休み時間の外遊びの推奨を行い、運動が好きな児童を育てる。	②-1 外遊びは、する子としない子に分かれてしまっているが、毎月1回の縦割り班への遊びも、運動の機会になっている。		
		②-2 保健委員会の生活調査を毎週全校放送し、意識の継続を図る。	②-2 保健委員会の生活調査で、清潔な身なりや朝ご飯を食べるなど、児童の意識が途切れないよう意識づけている。学校保健委員会では、全校児童保護者を対象に本校児童の生活習慣について調査し、報告する機会を得た。		

重点課題	重点目標	自 己 評 価		学校関係者評価	次年度の課題と今後の改善方策
		評価指標と活動計画	評価指標による達成度	学校関係者の意見	
開かれた学校づくりの推進	① 学校と家庭・地域との連携を密にし、子どもの教育を中心とした信頼関係と協力体制を築く。 ② P T A主催の行事や学校評議員会・学校運営協議会等で、地域や保護者の意見をしっかりと聞き入れ、学校運営に活用する。	評価指標 ①-1 個人懇談、参観日、運動会など保護者や地域の方が学校に来る機会を開催方法を工夫して実施する。 ①-2 教育活動の様子が保護者に伝わるようにする。	評価指標による達成度 ①-1 今年度は、分散の参観日の他、学習発表会は体育館で行い、多くの保護者に来ていただくことができた。 ①-2 ホームページや方小だよりで、教育活動の様子を写真入りで伝えるようにしてきた。	総合評価 (評定) B	○コロナ禍で開催できていなかった夏祭りが、これまでと違う形ではあったが、開催できてよかった。 ○様々な行事を復活したり、親子で一緒にできる行事を行ってほしい。
		② 方小祭りの実施や学校評議員会・学校運営協議会の学期ごとの実施で、学校への建設的な意見を吸い上げる。	② 夏に行うお祭りを3学期に延期したが、保護者のボランティア活動で実施できた。学校評議員会・運営協議会は2回実施し、学校への要望等、うかがうことができた。		
		活動計画 ①-1 個人懇談や参観日、運動会を行い、保護者との連携を保つようにする。 ①-2 学校ホームページ、学校だより、学年通信、保健だより等を通じて学校での教育体制が具体的に保護者に伝わるようにする。	活動計画の実施状況 ①-1 参観日の他、親子ふれあいフォーラムや学習発表会、学校保健委員会と児童の様子を見ていただき、伝える機会が昨年度より多くもつことができた。 ①-2 様々な学校での様子を写真を交えた学校だよりや学年通信で伝えた。		
		② 2年間できていなかった夏祭りを、開催方法を工夫して行う。 今年度から学校運営協議会を立ち上げ、地域とともに生きる児童を育成するための意見交換を行っていく。	② 方小祭りが6年生保護者のボランティアの力をお借りして、開催することができ、今後のお祭りの在り方についても考え直す機会を得た。 学校運営協議会も2回開催し、貴重なご意見をいただくことができた。		



敬 愛 信

信

敬う心 愛する心
信じる心